



会 員 メッセージ

新しいコーナーです

「冤罪事件に思う」

L. 吉川 裕



6月20日、氷見市の男性が婦女暴行で県警に誤認逮捕され、服役した冤罪事件の再審初公判が開かれた。報道によれば、今回の事件は留置場（代用監獄）に収容され、自白の獲得のため長時間の取り調べが連日行われ、自供も取調官の強要、証拠も取調官の捏造と言われるものが多いとされています。弁護側の取調官の証人尋問申請に検察は必要なし・裁判所は申請を却下しました。

今回は真犯人が逮捕されたことで、冤罪が明るみになりましたが、真犯人が逮捕されないでいたら、そのまま闇の中だろうと思うと背筋が寒くなります。今回は運がよかったで済まされますか？男性は裁判直前、取調官に「何故、自分が容疑者にされたのかを聞かないで終わらせるわけにはいかない」と語っていた。初公判はわずか35分で終わった。裁判所・検察庁・弁護側は真犯人でないことが証明されれば、それで良いということで済まされるのだろうか？男性の人権はどうなるんだ？冤罪事件を二度と起こさないためにはどうすれば良いか真剣に考えたいものです。先日上映された周防監督の映画、「それでも僕はやっていない」は、司法界に対する警鐘を鳴らす大変すばらしい映画でした。

「最近富山の気になること」

L. 奥澤 義明



ライトレールに始まり、この秋には大和もオープンする。若干ではあるが全国でも注目を浴びているのかなと思う。しかし都会ほど楽ではないなとも思える。

気がつけば当社もこの夏で7周年を迎えた。時代はめまぐるしく動いております。明らかに形態が変わっています。そんな中で試行錯誤の連続で走り抜け

てきたように思う。決して順風満帆ではなかった。それでも他人はよく見える。まさしく「隣の芝生は青く見える」であろうか。しかし自分で決済ができる毎日を幸せと考えよう。

世の中厳しい状況が続いておりますが、そんな中で社員 家族の絆だけでも大事にしていきたい。それには旅行がピッタリだと思う。

できるかぎりお客様の予算に合わせるよう提案しよう。この考えもライオンズ精神のおかげだと思う今日このごろだ。

「魚釣りへいってきました」

L. 藤川奈緒美



ある日市報を見てると、(キス釣り体験募集!)の文字を発見。ふーん釣りかーと思いながら隣で、アイスを食べてる8歳の娘に「釣り行きたい?」と何気なく聞いたら「うん!行きたい」と目をキラキラさせて、もう大喜び。最近レジャーに飢えていた私も、釣りなんて、何十年ぶりだし、せっかく海のそばに住んでるんだから体験するのもいいか、と思いながら申し込みの電話をしました。40人の募集で餌代、保険料込み4000円。朝4時出航、釣り竿を持参下さい、と言われ、近所の釣具店へ行き、竿と各種パーツをおじさんの言うがままに購入しました。

当日は、朝3時から、おにぎり、卵焼き、おやつをリュックに詰め、もう気分はレジャーそのもの、なんたって40人乗りの船、退屈しのぎの本も、持っていこうかと悩んだくらい、うきうきで指定の船着場へ向かいました。まだ暗い朝の海、そこで目にしたのは、小さな漁船。「え、まさか...」と思い、受付の人に「船は?」と聞くと「それです。7艘に分かれて乗ります。名前を呼ばれたら乗って下さい。」と、さらっと言われてしまいました。

困った。すぐに娘とトイレに行き、水分を取らないよう言い聞かせ、確実にあると思っていたトイレの問題をクリアし、覚悟を決めて漁船に乗りました。年季の入った船のオーナーらしきおじいさんは、80歳を当に超えた感じで、当然ライフジャケットも無く、どんどん不安になっていきます。それでも出航すると、潮風が気持ちよく、こんなに近くで水面を見たのも久しぶりだし、海の上を昇る朝日もちょっとステキで、レジャーっぽくなってきました。漁船のキャプテンも、おじいちゃんなのに、さすが海の男で、錘を海に投げ込む姿はなんだか勇ましく、頼もしく見えてきて、針に餌を付けられない私達の為に、せっせと餌を付けてサポートしてくれました。

いざ、釣りを始めると、釣れる釣れる、さすが海の上、アジやタイがぼんぼん釣れ始め、餌付けと、魚から針はずすのをキャプテンが頑張ってくれたおかげで、結構楽しく、5時間の漁船の旅は思わぬ大漁でした。肝心のキスは少ししか釣れなかったけど、海に魚が住んでいるのを実感できたのがよかったかな、と思う休日でした。ありがとうキャプテン。